

2021年度 石正美術館開館20周年

アフロディア



初の大回顧展がいま、故郷へ。

日本画家・石本正（一九一〇—二〇一五／島根県浜田市三隅町出身）が二〇二〇年に生誕一〇〇年を迎えたことを記念し、画業の全てをたどる回顧展を開催します。

本展では、石本の九十五年の生涯を五つの章に分け、各年代の代表作とともに最期の瞬間まで絵画ひと筋に生きた彼の画業の全容を紹介します。なかでも、本展でしか見る事の出来ない個人所蔵の貴重な作品や、文豪・川端康成との親交を示す初出資料などは、石本正の新たな一面をかいま見ることが出来る注目の人気となっています。

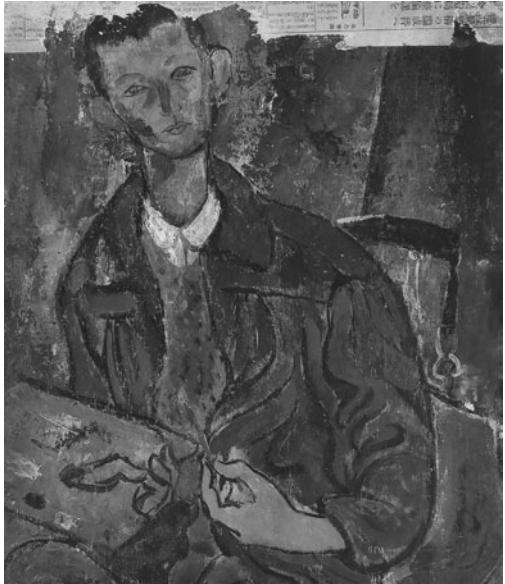
また、本展会期中のギャラリーでは、創作の原点でもある素描を四期に分けて展示。石正美術館だけの充実した内容で、石本正の画業のすべてをご紹介します。どうぞお見逃しなく。（ギャラリー展示の詳細は4ページをご覧ください）

展示構成

- 第一章 画家となる
- 第二章 画家としての挑戦
- 第三章 中世ヨーロッパと舞妓の画家
- 第四章 花と裸婦
- 第五章 総をかくよろこび



②



①



④



③

- ①自画像 1940年代／個人蔵（浜田市立石正美術館寄託）
- ②男 1950年代／個人蔵
- ③舞妓座像 1970（昭和45）年／個人蔵
- ④菊 1994（平成6）年／個人蔵（浜田市立石正美術館寄託）

生誕100年回顧展

石

本

正

2022.1.25[火]
— 4.10[日]

一般800(700)円
高校・大学生300(240)円
小・中学生200(160)円

観覧料 一般600円
ローソン各店(Lコード62803)
※販売期間2021/12/21～2022/4/10(16:30まで)

※（ ）内は20名以上の団体料金
※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日に家族で来館された高校生以下の観覧無料

【主催】公益財團法人浜田市教育文化振興事業団
朝日新聞社 中国新聞社
【後援】浜田市 浜田市教育委員会
【協賛】NISSHA株式会社

川端康成 「いよいよ石本觀音ができますね」



舞子裸婦〈舞子裸像〉1972(昭和47)年／個人蔵

「昨年(一九七二)年一月、所用で飛鳥に来られた川端さんは、その帰りがけにふらりと拙宅に寄られた。たまたま上半身を裸にした舞妓立像を二点描いていたので、それをご覧に入れると、「いよいよ石本觀音ができますね」とおっしゃって凝つと見つめておられたが、その姿が今もありありと眼に浮ぶ。亡くなる三ヶ月前のことだつた。」

画家のことば「藝術新潮」一九七三年二月号

注目の展示

川端康成との親交がうかがえる作品と石本自筆原稿

初の同時展示

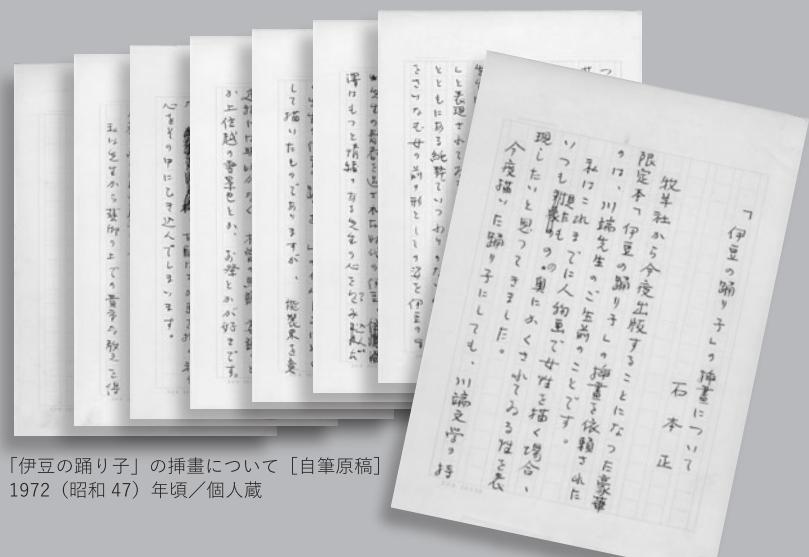
優れた芸術作品を見出す目利きとしても名高い、文豪・川端康成(一八九〇—一九七二)。しかしその川端が石本と親交があり、彼が描く舞妓や裸婦作品を高く評価し愛好していたことはあまり知られていません。

今回の展覧会では、長らく所在不明となっていた、川端康成が「いよいよ石本觀音ができますね」と評したという一对の『舞子裸婦』(『舞子裸像』)が十数年ぶりに公開されます。自死する三ヶ月前に目にした二人の舞妓像に、川端はどのように仏性を見出したのか。実際の作品の前で、文豪の姿に思いを致してみてはいかがでしょうか。

また、本展準備中に偶然見つかった石本正の自筆原稿も必見です。生前の川端から『伊豆の踊子』の挿絵を頼まれていたという石本。しかし、実現する前に川端は他界します。没後すぐに出版されることになり、彼は文豪に思いを馳せながら数点の作品を描きました。結局、本は出版されず現在に至りますが、今回の新発見により、本に掲載されるはずだった文章も執筆していましたが分かりました。川端康成の芸術世界に対する、深い思慕と敬愛の念がつづられた貴重な内容となっています。



アトリエにて／1972(昭和47)年頃
後ろに制作中の『舞妓裸婦』(『舞子裸像』)が置かれています。川端康成が目にした光景も、このような様子だったのでしょうか。



「伊豆の踊り子」の挿画について [自筆原稿]
1972(昭和47)年頃／個人蔵

生誕 100 年 回顧展 石本 正 関連素描展

ギャラリー展示のご案内（予定）

対象から得た新鮮な感動をそのままに描く素描やスケッチを、石本正はとても重要視していました。そんな彼の創作の原点ともいえる作品を 4 つのテーマに分けて紹介します。

回顧展とあわせて、石本の芸術世界をより深く感じていただければ幸いです。

※①～③の最終日は 15 時まで。ギャラリーのみの観覧は無料

① 黎明期 | 1月 25 日 [火]～2月 10 日 [木]（約 20 点）

学生時代から 1960 年までに描かれた作品を紹介します。



画学生時代に描いた「鴨」
1941（昭和 16）年頃（個人蔵／石正美術館寄託）



当館初公開 ふるさと三隅町を描いた
「三保浦福浦」1958（昭和 33）年



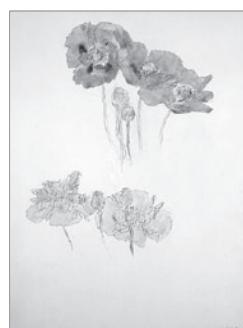
「女」（部分）
1950（昭和 25）年
当時近くに住んでいた遠縁に当たる少女を描いたもの。《踊子》や《旅へのいざない》を制作するもとになりました。石本の女性像の原点ともいえる作品です。

② 花 | 2月 11 日 [金・祝]～3月 4 日 [金]（約 15 点）

花の中でも石本が特に多く描いた「鶴頭」「ケシ」「牡丹」を展示します。画用紙を何枚もつなげて描いたスケッチからは、花を前にしていきいきと鉛筆を走らせる画家の感動が伝わってくるようです。



「鶴頭」1971（昭和 46）年
スケッチの段階から花に「花火」や「人」など異なるイメージを重ね、空想を膨らませながら描くこともありました。



「ケシ」
1980（昭和 55）年



「牡丹」1993（平成 5）年

③ 人物 | 女性表現の移り変わり（約 30 点）

3月 5 日 [土]～3月 25 日 [金]



「裸婦」1986（昭和 61）年

モデルの体温や肌の感触をも感じさせるような石本正の人物デッサン。20代～70代までの素描を年代順に展示し、女性表現の変遷を辿ります。

④ 風景 | ヨーロッパスケッチ（約 15 点）

3月 26 日 [土]～4月 10 日 [日]



「サン・ジミニャーノ」（イタリア）1987（昭和 62）年

若き日より憧れた中世ヨーロッパ美術を求め、石本は1964 年以降ヨーロッパ各地を旅しました。その時に出会い心惹かれた風景のスケッチを、旅に関する資料とともに展示します。

石本作品

巡回の旅からの帰郷

石本正先生の一〇〇歳のお誕生日であった二〇二〇年七月三日から約一年半、石正美術館で「生誕一〇〇年回顧展 石本正」が開催される運びとなりました。いよいよといった感じで、館内は盛り上がりおります！

これまでに石正美術館から外に出たことがありません。それらの作品が各会場で違った魅力が引き出されていて、当館での作品の印象だけに慣れ過ぎていた私の眼にとても新鮮にうつりました。

島根県立美術館での様子は、昨年春のミュージアムニュース一四七号で触れたとおり、巡回会場のうち最も大きな展示室に約百六十点もの作品が並び、一望するだけで石本先生の画業のすべてが伝タートとなつて今に至ります。最初は松江市の島根県立美術館、次は愛知県の一宮市三岸節子記念美術館、そして静岡県の浜松市秋野不矩美術館。石本先生の作品は、二〇二一年四月から十二月までの間に、この三館を旅してきました。今回の巡回を終えて感じた事は、美術館にもそれぞれ個性があることでした。回顧展のために見て、同じ作品でも場所によつて見え方がずいぶん違うんだなあといふことでした。回顧展のために巡回の旅に出た作品のほとんどは、

規模としては当館と同じくらい

で、しかも偶然にも展示室の床に使われているカーペットの色まで同じ。なんだかとても親近感のわく会場でした。ここでの作品の並べ方は、お客様が見やすいようにかけて工夫をしてくださいました。当館ではあまりチャレンジしたことのない、作品同士の間隔が比較的狭い展示方法で、その分、それぞれの時代における画風がまとめて目に入つてきてとても分かりやすないと感じました。いつか当館でもやつてみたいと思える展示方法でした。また、日本を代表する女流画家・三岸節子先生を顕彰する個人美術館として、日ごろから本当に心のこもった取り組みをされていて、その姿勢を見習いたいと思える大変すばらしい美術館でした。

最後の浜松市秋野不矩美術館は、石本先生が母や姉のように慕つておられた秋野不矩先生のために建てられた美術館。お客様が靴を脱いで展示室に上がり、床に座つて作品を鑑賞することができるようにになつていて、随所で、とても楽しみです。

一宮市三岸節子記念美術館は、

天井も壁も床もすべてが真っ白。外光が入つてくる仕組になつていで、訪れる時間帯によつて作品が違つて見えます。この真っ白な空間の中に並ぶ石本先生の作品を

床の真ん中にすわつてゆっくりと眺めていると、本当に作品と対話をしている気持ちになります。この美術館はきっと、とてもおおらかで温かいお人柄だつたという秋野先生そのものなのでしょう。まるで、石本先生の作品が秋野先生の胸にいだかれているようでした。

こうした約八ヶ月の素晴らしい旅を終えて、作品がいよいよ石正美術館に帰ってきます。当館での開催にあたり最もこだわった所をひとつ挙げるなら、先生が「作画の原点」と位置付けていた《五条坂風景》にかかるる展示でしようか。本画だけでなく、スケッチ、素描、大下絵など、そこに至るまでの試行錯誤を同時に見る事が出来るコーナーは当館だけの特別展示です。石本先生が「心埋める場所」と言つたこの美術館での回顧展はどのような雰囲気になるのか、どうぞ楽しみにしていてください。

（横山）

創作教室

土人形絵付け体験 —ひなにゃんを作ろう—

講師：土人形作家 福美さん（三隅町）

2.12 土 参加費 1,500円（2匹セット）

13時～15時 要申込み【定員】10名



お内裏様とお雛様になった猫の土人形「ひなにゃん」に絵付け体験ができます。
お家に飾って「ひなにゃん」と一緒にひな祭りを祝いましょう。

講演会

「生誕100年回顧展 石本正」特別講演会 石本正の回顧展から見えてきたこと

講師：田野葉月氏（滋賀県立美術館学芸員）

1.29 土 13時30分～14時30分 【定員】
参加無料 30名（先着）

元・島根県立美術館専門学芸員で、この度の回顧展企画に深く関わっていた田野氏に、近代日本画を専門とする視点から本展を通して日本画家・石本正について見えてきたことをお話しいただきます。

講演会

「生誕100年回顧展 石本正」特別講演会 石本正—創造の旅—

講師：西久松吉雄
(当館館長、創画会常務理事、成安造形大学名誉教授ほか)

2.26 土 13時30分～14時30分 【定員】
参加無料 30名（先着）

石本正の教え子の一人でもある当館館長による講演会です。
「石本先生の創造の原動力とは？先生が憧れたヨーロッパのフレスコ画や日本の仏像、また同時期に活躍した周辺の画家の作品などと比較しながら、独創性ある石本作品を紹介します。」

創作教室

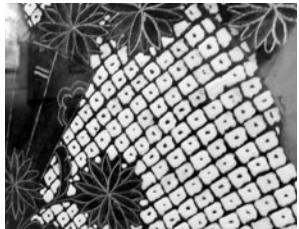
日本画ワークショップ 絵の中の着物の模様を描いてみよう

講師：横山由美子
(石正美術館学芸員)

3.12 土

14時～16時

参加無料
要申込み
【定員】10名



石本正は、絵の中の女性たちを美しく飾ってあげたいという気持ちで、着物の模様を全て自分でデザインして描いていました。画家が心を込めた模様の一部を、日本画の絵具で描いてみませんか。

創作教室

帯から手のり雛

講師：ちくちくさん

2.27 日

13時～15時

参加費 1,000円（2体セット）

要申込み【定員】10名

【持ち物】洗濯ばさみ2個



着物の帯を使って、手のりサイズの華やかでかわいらしいお内裏様とお雛様を作ります。
針を使わず、どなたでも簡単に作れます。

コンサート

しだれ桜クラシックコンサート 春を奏でる～石本正が愛した音楽とともに～

3.26 土 14時～14時30分（開場13時45分） 入場無料
【定員】30名（先着）

出演:Duoアフェッティ 会場：石正美術館回廊（中庭）※雨天時は創作室

クラシック音楽を愛した石本正の回顧展にあわせ、コンサートを開催します。
石正美術館のしだれ桜の下で、バイオリンとフルートの美しいハーモニーを堪能しませんか？



SCHEDULE

石正美術館スケジュール

石本正 記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
1	1.17 月 → 1.24 月	展示替休館	CLOSED
2	生誕 100 年回顧展 石 本 正 料など多数展示。 作品、文豪・川端康成 との親交を示す初出資 事の出来ない個人所蔵 じめ、本展でしか見る 当館所蔵の代表作をは 【出品数約80点】	生誕100年回顧展 石本正 関連素描展 ①黎明期 【入場無料】 最終日は15時まで	1.29 土 13時30分 ～ 14時30分 【「生誕100年回顧展 石本正」特別講演会】 石本正の回顧展から 見えてきたこと 【参加無料】 詳細は右ページへ→
3		生誕100年回顧展 石本正 関連素描展 ②花 【入場無料】 最終日は15時まで	2.12 土 4.2 土 14時～ 14時45分 【「生誕100年回顧展 石本正」関連イベント】 学芸員によるギャラリートーク 参加費：観覧料のみ 観覧料
4		生誕100年回顧展 石本正 関連素描展 ③人物 【入場無料】 最終日は15時まで	2.12 土 13時～15時 【土人形絵付け体験 —ひなにゃんを作ろう—】 要申込み 詳細は右ページへ→
		生誕100年回顧展 石本正 関連素描展 ④風景 【入場無料】	2.26 土 13時30分 ～ 14時30分 【「生誕100年回顧展 石本正」特別講演会】 石本正—創造の旅— 【参加無料】 詳細は右ページへ→
	1.25 火 ↓ 4.10 日	生誕100年回顧展 石本正 関連素描展 ④風景 【入場無料】	2.27 日 13時～15時 【帯から手のり雛 】 要申込み 詳細は右ページへ→
			3.12 土 14時～16時 【日本画ワークショップ 「絵の中の着物の模様を 描いてみよう」】 要申込み 詳細は右ページへ→
			3.26 土 14時～ 14時40分 【開場】 13時45分 【しだれ桜クラシックコンサート 「春を奏でる ～石本正が愛した音楽とともに～」】 【入場無料】 詳細は右ページへ→

令和4年度
**ギャラリー利用者
大募集中！**

【詳しくは石正美術館までお問合せください】
TEL 0855-32-4388

当館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。
絵画・写真・書道・立体作品など、様々な作品の展示が可能です。
展示経験がおありの方はもちろん、初めての方も大歓迎です！
美術館でご自分の作品を発表してみませんか？



利用料：1日 2,200円（税込）

※利用料金は電気代・什器利用代など含む
※設営・撤去日は含みません

利用募集期間（先着順・1週間単位でご企画ください）

令和4年

- 4月19日(火)～5月26日(木)
- 7月5日(火)～8月4日(木)
- 11月3日(木・祝)～11月30日(水)

SEKISHO ART MUSEUM

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館)

展示替え期間

(令和4年1月17日(月)~1月24日(月))

(令和4年4月11日(月)~4月18日(月))

観覧料 一般 800円 (団体 700円)

高校・大学生 300円 (240円)

小・中学生 200円 (160円)

前売券 一般 600円 (※詳細2ページ)

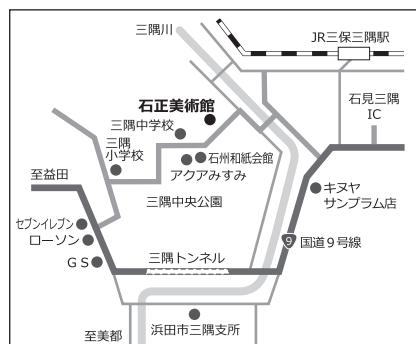
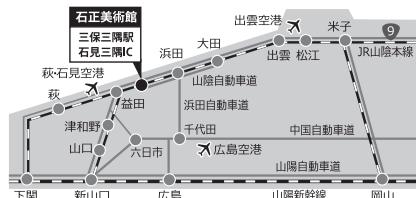
※20名以上は団体料金。

※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。

※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高校生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICから車で20分
- 山陰道 石見三隅ICから車で3分
- 萩・石見空港から車で40分



石正美術館 ミュージアムニュース

アフロディア

No.150

Winter 2022

令和4(2022)年1月21日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 島根県浜田市三隅町古市場 589

TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

<http://www.sekisho-art-museum.jp/>

石正美術館

検索



今年はサポートーの皆さんに空き瓶をご提供いただき、前庭や回廊に並べて光のモニュメントを制作しました。天候が気になりましたが、幸い夜間開館した3日間とも点灯することができ、来場された多くのお客様にろうそくの火ならではの魅力をお楽しみいただきました。その他にもイルミネーションの設置やろうそくの点灯作業など様々な場面でサポートしていました。本当にありがとうございました!

光のモニュメント制作

いわみの冬至祭 光の回廊2021

石正美術館の

美術
講座

募集開始日

3月1日(火)



講座期間

前期 (令和4年4月~9月)

洋画教室のみ、令和4年4月~12月

※定員になり次第締め切ります。

初めての日本画

講師:横山由美子 (石正美術館主任学芸員)

第3日曜日 9:30~12:00

定員10名 受講料 5,000円 ※定員多数のため、現在申込を受付けておりません
前期 4月~9月 (全6回)

洋画教室

~ドローイング・デッサン・油絵・アクリル画~

講師:野村 泰二 (日本美術家連盟 会員)

指定受講日 9:30~16:00

油絵・アクリル絵具をそれぞれの画材の中心にして、それらの特質である画材としての多様性を活用し、自らの表現を大切に、描く楽しさを味わう教室です。ドローイング・デッサンからエスキース、支持体の作成からマチエール研究、本制作へ展開します。

定員15名 受講料 15,000円 4月~12月 (全9回)

※洋画教室のみ9カ月 (4月~12月) の講座期間になります。

島根学

講師:神 英雄 (歴史地理研究者・安来市加納美術館前館長)

第4土曜日 10:00~11:30

古代から現代までの島根の様々な事象を探りあげて、歴史・芸術から食の話まで、楽しみながら学べます。

定員30名 受講料 6,000円 前期 4月~9月 (全6回)

申込方法

1. 「募集開始日」から当館にて受付を始めます。
2. 所定の「受講申込書」とともに受講料を一括前納してください。
3. 各講座とも定員になり次第締め切らせていただきます。
(定員未満であれば学期の中途受講も可能です)
4. 受講者証をお渡しします。

【展覧会のお知らせ】音羽キミ作品展

会期: 令和4年4月13日(水)~4月17日(日)

会場: クリエイティブ・スペース赤れんが

(山口市中河原町5-12) 入場無料 (初日は13時から)

協力: 熊谷樞 (豊島区立熊谷守一美術館館長)、浜田市立石正美術館



長年石本正絵画教室にて「石本先生から絵を描くよろこびを教わった」という音羽キミさんが個展を開催されます。

『春のシンフォニー』

ピーチちゃんのつぶやき

桜の季節が
恋しいなあ。



さゆくてなかな
お布団から
出られない。